関良基氏　講演会「日本開国史の定説を覆す」を聴講して

布施修一郎(6 組)

先に、読後感を投稿しましたが「日本を開国させた男　松平忠固」を上梓した 86 期の関良基さんの講演会が上記のタイトルで 11 月 28 日に上田市中央公民館大会議室で開催された。主催は、中央公民館(神川講座)で、コロナ禍の為 40 人に絞っての開催であった。約 30 名の方々は申し込まれたが、定員オーバーで残念ながら参加できなかったとのこと。同期からは小山壽一君(2 組)、小山田秀士君(7 組)、若林健君(9 組)と私が参加した。

「歴史は後世の為政者により捻じ曲げられる」という例の典型と捉えても良い、関良基さんの思いが積もった本の内容に沿った講演でした。講演のアウトラインとしては

1、松平忠固ってどんな人
2、日米和親条約での活躍　　徳川斉昭との激闘
3、日米修好通商条約での活躍　井伊直弼との死闘
4、日米修好通商条約で関税自主権は存在した
5、上田藩と生糸・蚕種

の予定であったが、1 時間半では質疑応答を入れ込むと時間不足であった。

質疑応答では、講演で触れられなかった、5、への市民意識の向上方法は？　赤松小三郎ら全国内で活躍した上田藩士への忠固公からの影響はあったか？　どうして開国や貿易に造詣が深い殿様であったのか？　などが挙げられていた。的確な回答は中々難しいが著書の中にヒントがあると思われる。

為政者＝明治政府(薩長)が、徳川幕府(忠固達)があたかも無能であったかのように、徳川幕府より明治政府の方が優れているように、国民に嘘偽りのアピールをしたことが、歴史上正しいとされ続けてきたことを間違いとする講演であったが大変熱の籠ったものであり、タイトルの歴史を覆す説、井伊直弼が開国をしたのではない、日米修好通商条約は日本有利に進められていたことをさらに強調したものであった。学校教育では明治政府の説が正しい歴史であると私達は習ってきた。そこのところを歴史学者が認め、修正するかどうかが課題だと思っていましたし、講演タイトルのように定説を覆すことが、質疑応答でも講演の中でも時間不足で触れられなかったのは残念ではあった。更に、攘夷派の水戸学派、吉田松陰らの影響で 2.26 事件の勃発、「天皇陛下万歳」と多くの国民が散っていった太平洋戦争が起きたとも言えるとの発言もあった。

今後も、関良基さんには何度か講演頂きたくお願いしておきました。

講演後、何人かの方が購入した著書へのサインを求めておられたが、その中に著書を読んだという中学生の男の子がいたことに著者共々感激したと共に、出版が 4 刷まで行われていると聞き、嬉しく思った次第です。